

# 栃の木からの手紙

2023年 長月 9月号



- 8日： 白露：
- 15日： 新月 旧 8月 1日
- 18日： 敬老の日
- 23日： 秋分
- 29日： 満月 旧 8月 15日  
十五夜

例年、お盆前から始まる一般食用芋3町歩ほどの収穫作業は、危険な気温が続く中8月10日から始めて21日で終了。背中に当たる陽射しはジリジリと焼ける様な感触。

太陽の活動周期を調べてみたら、今後太陽の活動は不活発になり低温時期に向かっているようです。人間が知りうる自然界の営みから計り知れない火素の働きは人類の都合による温暖化以上に自然界の火素の増加をイメージさせて頂いた焼けつく様な感触。私に付いていた悪が焼かれていたのかもしれない。



続けて翌朝からトラクタと芋収穫機の水洗浄を行い1時間ほど乾かしてから自然農法畑の芋収穫が始まりました。

今年自然農法の畑では、8月17日に芋畑の茎葉・雑草処理（さやあかね芋は24日）を行い22日から収穫を始め、27日には収穫を完了しました。例年より10日前後早まっています。

自然農法の芋の収穫では、雑草が機械に絡まって作業が大変です。数年前までは収穫しながら機械の後ろの殻・土塊などの排出コンベアによじ登り大変な作業を行っていましたが、雑草の茎葉処理を行う様になってから以前行っていた収穫作業が嘘のようです。



畑での芋の収穫作業は完了しましたが現在、シル

バー人材センターから数名派遣していただいて一般のとうや芋の選別箱詰作業を進めています。この作業が9月下旬まで続きその間、澱粉芋の収穫、秋播き小麦の播種作業が入ってきます。自然農法の芋の選別箱詰は一般の芋の後に始まり10月上旬に完了する予定です。



さて、8月末にいつも出面としてお世話になっていた（ここ数年は、引退していました）Kさん  
がご逝去し、お通夜に行ってきました。このところ  
コロナ対策でお通夜に行っても来たよという証  
拠づくりでご焼香だけして直ぐに帰って来る様な  
形態が続いていますが、K氏の明るい遺影を見て  
こころが変わりました。

最後まで居させてもらおう。御蔭様で住職の素  
敵なお話に出会う事が出来ました。



故人の日頃の行いから住職が話し始めた事は  
「捨身施」。物やお金を施すことの他に自分自身を  
施す事を伝えて頂きました。そして「四苦八苦」。  
絶えること無い苦悩。執着を断ち切る事で楽にな  
るんですよ。手を離す事です。

1985年8月12日夕方に発生した日航ジャ  
ンボ機の墜落事故から38年になる前日8月11  
日夜。ひとつの執着を捨てました。頭を丸めて、  
事故の犠牲者の慰霊をさせて頂きました。

私のおじいさんは、群馬県多野郡上野村で、事  
故の起きた現場に一番近い村に住んでいた。私は、  
北海道に来る前は自転車でおじいさんに会いに出  
かけていた。おじいさんの言葉の記憶は、家の中  
から日航機事故の慰霊の苑のある方を見ながら  
「あそこまで行ってきたらいい」という言葉。そ  
れ以来おじいさんに会う事無く亡くなりましたが、  
2020年の7月頃、午後体調を崩し寝ていたと  
ころ夜になってあるはずもない頭の上の方から廊  
下をバタバタと走る音が聞こえ私の体の上にペタ、  
ペタ、と飛び乗ってきた意識を残して気がつきま  
した。そして、熱も下がり体も楽になった不思議  
な体験。たぶんおじいさんが日航機の霊を引き連  
れて助けてくれた事と感じています。感謝してそ  
んな思いで丸坊主。おじいさんも丸坊主。



お通夜の住職のお話の途中、感じる視線。私は、  
仲間ではないですよ。同業でもないですよ。でも、  
サッパリしていい気持ち。

（左写真の坊主頭は私ではありません）

農作業でも、執着を捨てる事がどれだけできる  
だろうか？この秋、秋播き小麦収穫跡での越冬エ  
ン麦の栽培試験が始まります。